

ディスコグラフィー収載

ディスコグラフィー【2017No.76】(HP 収載)

分類：BD-ROM(11.2MHz DSD)

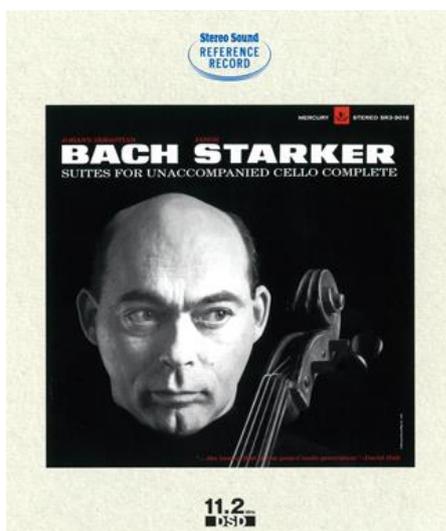
作曲家：ヨハン・セバスティアン・バッハ

曲名：無伴奏チェロ組曲

演奏：ヤーノシュ・シュタルケル

発売：ステレオサウンド社

No.：SSHRB-005



本盤の由来についてのステレオサウンドオンラインの解説はディスコグラフィー【2017No.74】と同様です。収録曲の解説は次のとおりです。

J.S.バッハ:無伴奏チェロ組曲(全曲)

バッハの奇跡のような音楽をみずみずしいまま引寄せるチェロの音像はやや大きめだが、中程度のパースペクティヴにホログラフィックな形を保つ。ローレベル・テクスチュアやナチュラルな音色は、驚異的な水準にある。弦が指板にぶつかる音や呼吸音が距離感をともなって届けられるのはともかく、重音はもちろん単音のパスセージでも、レゾナンスによってスペースに生み出される和音が壮大な音の建築物を出現させる。その場を世界の中心に変えてしまうような感動的な録音だと言ったら過ぎるだろうか。(弊社発行 嶋護著「クラシック名録音・究極ガイド」より抜粋)

収録曲

ヨハン・セバスティアン・バッハ

Johann Sebastian Bach

無伴奏チェロ組曲 BWV 1007-1012

Six Suites for Solo Cello, BWV 1007-1012

第1番 ト長調 BWV1007

No.1 in G major, BWV 1007

1. 第1曲 プレリユード [2:27]

1. Prelude

2. 第2曲 アルマンド [4:30]

2. Allemande

3. 第3曲 クーラント [2:25]

3. Courante

4. 第4曲 サラバンド [3:22]

4. Sarabande

5. 第5曲 メヌエット I/II [2:56]

5. Menuet I/II

6. 第6曲 ジーグ [1:37]

6. Gigue

第2番 ニ短調 BWV1008

No.2 in D minor, BWV 1008

7. 第1曲 プレリユード [3:16]

1. Prelude

8. 第2曲 アルマンド [2:48]

2. Allemande

9. 第3曲 クーラント [1:26]

3. Courante

10. 第4曲 サラバンド [3:40]

4. Sarabande

11. 第5曲 メヌエット I/II [2:35]

5. Menuet I/II

12. 第6曲 ジーグ [1:37]

6. Gigue

第3番 ハ長調 BWV1009

No.3 in C major, BWV 1009

第4番 変ホ長調 BWV1010

No.4 in E flat major, BWV 1010

1. 第1曲 プレリユード [4:06]

1. Prelude

2. 第2曲 アルマンド [2:47]

2. Allemande

3. 第3曲 クーラント [2:32]

3. Courante

4. 第4曲 サラバンド [3:24]

4. Sarabande

5. 第5曲 ブーレ I/II [3:53]

5. Bourree I/II

6. 第6曲 ジーグ [1:35]

6. Gigue

第5番 ハ短調 BWV1011

No.5 in C minor, BWV 1011

7. 第1曲 プレリユード [6:47]

1. Prelude

8. 第2曲 アルマンド [4:13]

2. Allemande

9. 第3曲 クーラント [2:07]

3. Courante

10. 第4曲 サラバンド [2:44]

4. Sarabande

11. 第5曲 ガヴォット I/II [4:05]

5. Gavotte I/II

12. 第6曲 ジーグ [2:33]

6. Gigue

第6番 ニ長調 BWV1012

No.6 in D major, BWV 1012

13. 第1曲 プレリユード [4:15]

1. Prelude

14. 第2曲 アルマンド [2:55]

2. Allemande

15. 第3曲 クーラント [2:11]

3. Courante

16. 第4曲 サラバンド [3:20]

4. Sarabande

17. 第5曲 ブーレ I/II [3:13]

5. Bourree I/II

18. 第6曲 ジーグ [2:06]

6. Gigue

13. 第1曲 プレリユード [4:41]

1. Prelude

14. 第2曲 アルマンド [4:35]

2. Allemande

15. 第3曲 クーラント [2:35]

3. Courante

16. 第4曲 サラバンド [3:22]

4. Sarabande

17. 第5曲 ガヴオット I/II [3:36]

5. Gavotte I/II

18. 第6曲 ジーグ [2:42]

6. Gigue

ヤーノシュ・シュタルケル(チェロ)

Janos Starker, Violoncello

録音: 1963年4月15日(第2番)、1963年4月15、17日(第5番)、1965年9月7日(第1番)、

1965年9月7、8日(第6番)、1965年12月21、22日(第3番、第4番)

ニューヨーク、ファイン・レコーディング・スタジオ

Recording: Recording: Ballroom Studio A, Fine Recording, New York, 15 April 1963 (No. 2), 15 & 17 April 1963 (No. 5), 7 September 1965 (No. 1), 7 & 8 September 1965 (No. 6), 21 & 22 December 1965 (Nos. 3 & 4)

Recording Director and Musical Supervisor: Harold Lawrence

Recording Engineer: Robert Eberenz

前報(74)と同様、BD-ROM から 11.2MHz DSD 音楽ファイルを fidataHFAS1-S10 にコピーし、USB 経由で HFAS1-S10→Sonica DAC により再生します。なお、以前に本音源と同じマスターから製作された SACD と CD のセットを購入して [ディスコグラフィー【2017No.66】](#) で報告しています。それによれば、「CD の CD ドライブからの Sonica DAC への LAN 入力では、非常に鮮明で、上記のマスターテープからの補正処理を行っていないという解説どおり、ノイズまでも鮮明に入ったリアルな音がします。CD の CD ドライブからの Sonica DAC への USB 入力では、さらに忠実度がまし、アナログ的といっているほどの音がします。SACD の Sonica DAC へのライン入力では、ソフトな音で、これもアナログ的と言っていい音です。」となっています。

今回、11.2MHz DSD を USB 経由で HFAS1-S10→Sonica DAC により再生しますと、まず回転系がないことのメリットで静寂感が向上していることは当然ですが、DSD ら

しい自然さとアナログ的なソフトな味わいがいっそう向上し、シュタルケルがこのようにバッハを解釈しているということが容易に分かるような気がします。

以上